

## 22 ウォーターベッドの効用

国立療養所東埼玉病院

成 富 明 子      古 橋 祐 子  
中 村 文 美      片 山 道 子  
滝            あ け み

### 〔はじめに〕

ウォーターベッドについては、既に昭和50年度より研究課題として発表してきた通りである。病院用として作成したウォーターベッドを使用し、そのベッドの効用について調査することとした。はじめは、PMD児の重症児の安眠を主として試作したウォーターベッドであるが、使用状況等調査の段階においてウォーターベッドの効用について、注目せざるを得ないものがあった。このウォーターベッドは、各季節により自由に温度調節が出来る。適温は摂氏28℃前後である。患児の血行を良くし循環障害等により起こる合併症には効用があると思われる。PMD児は機能の低下に伴ない、種々の合併症が起き易く、

(1)凍傷      (2)湿疹      (3)重症児における心不全      (4) 上気道炎及び気管支炎等が上げられる。

### 〔調査及び結果〕

#### (1) 凍傷

PMDの重症児は1日のほとんどをベッド上で過ごす。尚凍傷に罹患する患児があるので調査した。病院用普通ベッド使用児2名A B、ウォーターベッド使用児2名C Dを選出した。A B C Dいずれも足浴後薬品ユベラ軟膏塗布し、A Bにおいては、その後アンカを使用したにもかかわらず冬期中、発赤及び搔痒感が持続し完全なる治癒はしなかった。C Dは、アンカを使用せずウォーターベッド使用のみで約10日間で治癒した。

#### (2) 湿疹

同一体位等により乾燥の不十分な皮膚の部位が罹り易くその最も多いものは、陰部湿疹である。たまたまウォーターベッドを使用した患児が早期に治癒した一例もありその治癒過程を調査した。夏期外泊中に生じた湿疹の場合をウォーターベッド使用児をA病院用ベッド使用児をBとし、A Bとも1日2回朝夕清拭後グリテール軟膏を塗布した。

表1の点線はA、実線はBで治癒過程はグラフの通りである。この他軽症児4例を試みてみたが、ウォーターベッドの方が、早期に治癒した。

#### (3) 重症児における心不全

重症児は、心不全及び肺炎など致命的なものとなっており、その症状の一部で認められる場

合は早期の対処を行なっているが、その予防と早期治癒にウォーターベッドを使用し調査を行った。潜在性心不全患児1例、病院用ベッド使用時と、ウォーターベッド使用時の脈拍及び一般状態の比較を調査した。病院用ベッド使用時は脈拍が120回前後でリズム不整の見られる場合もあったが、ウォーターベッド使用時より1日で、90回前後におちついた。一般状態においてもウォーターベッド使用時の方が良い結果を得た。

(4) 上気道炎及び気管支炎等

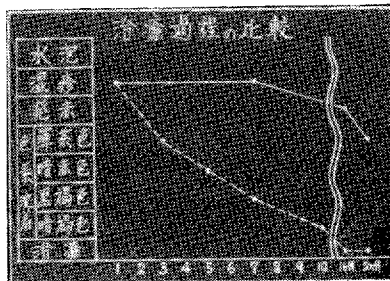
病院等集団生活においては、一人の患児が罹ると他の患児もこの影響を受けることが多いので調査項目に上げたが、心不全患児のウォーターベッド使用のため未調査であるがいずれ調査を続けて行きたいと思う。

〔考 察〕

凍傷、湿疹、心不全等においては、ウォーターベッドの効用は非常に大であると思われる。

この他、種々の疾病にも大いにその効用を確かめていきたいと思うと同時に、1台でも多くのウォーターベッドが病院で使用される事を切望する。

写真1

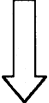
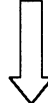


23、筋ジス病棟における体温測定の見計

国立療養所東埼玉病院

大野 美佐子	新垣 小夜子
樋口 光江	松木 きみえ
襄田 智子	松浦 涼子

当院PMD病棟では1日2回、朝5時と午後3時に検温を行っていた。朝5時の検温、は患児はまだ腫眠臥床中の為安静時の体温、脈膊とし、起床させてよいか、登校可能か等判断する情報となる。午後3時の検温は入浴、訓練、おやつ等の終了後の体温、脈膊であり、活動中の値としてとらえていた。又、主治医の勤務時間中に異常の早期発見をして治癒処置が出来るようにとの配慮もあるわけである。しかし、合併症もなく比較的異常の少ない患児にとっては、1日2回の検温時間は短時間であるにもかかわらず自由

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用   
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

ウォーターベッドについては、既に昭和 50 年度より研究課題として発表してきた通りである。病院用として作成したウオーカーベッドを使用し、そのベッドの効用について調査することとした。はじめは、PMD 児の重症児の安眠を主として試作したウォーターベッドであるが、使用状況等調査の段階においてウォーターベッドの効用について、注目せざるを得ないものがあった。このウォーターベットは、各季節により自由に温度調節が出来る。適温は摂氏 28 前後である。患児の血行を良くし循環障害等により起こる合併症には効用があると思われる。PMD 児は機能の低下に伴ない、種々の合併症が起き易く、  
(1)凍傷 (2)湿疹 (3)重症児における心不全 (4)上気道炎及び気管支炎等が上げられる。